

	新潟市教育委員会 平成18年1月 定例会会議録			
日 時	平成18年1月20日(金) 午後3時00分			
場 所	市役所 第2分館 3階 教育委員会室			
出席委員 (5名)	高 山 委員長	欠席委員		
	白 勢 委 員			
	山 田 委 員			
	小 池 委 員			
	佐 藤 教育長			
会議に出席 した職員 (26名)	職・氏 名		職・氏 名	
	学校教育部長	加 藤 三 郎	小 須 戸 教育事務所長	田 沢 広 一
	生涯学習部長	佐 藤 信 幸	横越教育事務所長	神 田 弘
	総務課長	眞 島 幸 平	亀田教育事務所長	石 澤 正 明
	学務課長	遠 藤 良 二	岩室教育事務所長	山 上 光 男
	施設課長	関 尚 久	西川教育事務所長	市 橋 勝
	学校指導課長	伊 藤 充	味方教育事務所長	星 野 昭 生
	保健給食課長	片 田 幹 博	潟東教育事務所長	斉 藤 丈 男
	生涯学習課長	八 木 秀 夫	月潟教育事務所長	登 石 純 一
	青少年課長	伊 田 千 代 子	中 之 口 教育事務所長	宮 本 周 英
	体育課長	渡 辺 茂	巻教育事務所長	近 藤 義 衛
	新津教育事務所長	笹 川 正 文	総務課長補佐	斎 藤 仁
	白根教育事務所長	櫻 井 文 一	総務係長	大 井 聡
豊栄教育事務所長	吉 川 剛 史	総務課主事	山 際 幸 太	
その他の 出席者 (名)				

開会	時 刻	午後 3時00分
	宣 言 者	委員長
選挙	議案番号	件 名
付議事件 (2件)	議案番号	件 名
	議案第48号	教育長の専決処理について ・事務局及び機関の人事について
	議案第49号	事務局及び機関の人事について
報告 (3件)	記 号	件 名
		新潟市黒崎市民会館の開館について
		成人の日のつどい事業報告について
		新潟市スポーツ振興基本計画(案)について
その他 ( 件)	記 号	件 名

## 第1 開会宣言

○委員長 午後3時00分開会を宣言する。

## 第2 会議録署名委員の指名

○委員長 白勢，小池両委員を指名。

## 第3 付議事件

○委員長 議案第48号及び議案第49号について，人事案件のため非公開とし，会議の最後に審議したいと思います。

○全委員 全員異議なく了承する。

## 第4 報告

○生涯学習課長 新潟市黒崎市民会館の開館について，資料に基づき報告。

### 【報告概要】

開館日，開館記念事業等について報告。

○委員長 質問，意見を求めるが，なし。

○青少年課長 成人の日のつどい事業報告について，資料に基づき報告。

### 【報告概要】

地区別の参加者数，参加率等について報告。

○委員長 質問，意見を求める。

○白勢委員 大変道路が混んで遅刻をされた方が随分いたと思うのですが，何か想定外だったところはあったのでしょうか。

○青少年課長 今回はじめての会場だったわけですが，今回成人の方たちは，自分で車に乗ってくるのではなくて，送ってくる車が多く，そこで新成人を降ろすのにかなり時間がかかっていること，車の引き込みも1カ所にしましたので，そのあたりが今後の検討事項だと思います。また，周りの駐車場が幾つかあるのですが，

	そこは30分無料ということを宣伝していたのですが、そのあたりをもう少し宣伝しまして、駐車場も利用していただくようなかたちで、もう少し会場にくる方が早く降りれて、人のさばきが良くなるような方法を考えてみたいと思っております。
○委員長	交通整理をする人が少なかったような気がしましたが、その点はどうか。
○青少年課長	警備会社に委託するなどして人数を確保して行いました。例えば横断歩道は使わないで手信号にさせていただくとか、信号を点滅にさせていただくとかで、いつも以上に車の流れが良くなるようなやり方でやらせていただいたのですが、もう少し検討する事項があるのかと思います。
○委員長	新津・白根・豊栄地区はこれから各地区でもう1回成人式をやって、小須戸・潟東・巻地区はすでに各地区で行っているわけですが、これは、来年度も同じですか。
○青少年課長	来年度も同じです。
○委員長	そうしますと、このかたちは続くのですか。新潟市1ヶ所でまとめてやってしまう話にはなっていないのですね。
○青少年課長	これは政令市前までのやり方で、政令市後どうするかについては、これから検討することになります。
○委員長	1ヶ所にまとめてしまった場合、朱鷺メッセには入りますか。
○青少年課長	1万人収容できると言われておまして、今回は約9千2百人の対象者でしたので、100パーセントの参加率であっても可能です。
○委員長	区ごとにやったらどうかという意見も出ていますし、アクセスの面で大雪になったらもっと混雑が考えられます。そういったことで政令市になった場合にどうするかということは、ぜひご検討いただきたいと思っております。
○小池委員	来年度このかたちでやるとすれば、降りる所を増やすとか、警

	<p>備員を増やすだけで、人がさばけるかどうか。今年は1回目だったから仕方がないとしても、来年度も同じような混乱があったらもっと厳しい批判がくると思いますので、その点いろいろな工夫を考えていただきたいと思っております。</p>
○委員長	<p>今回実行委員会方式でなかった、応募者がなかったということですが、来年度は実行委員会方式を考えていますか。</p>
○青少年課長	<p>この成人の日のつどいというのは、成人を祝うという意味と新成人に対しては大人だという自覚を持っていただく部分もあるかと思えます。このため成人の人たちが企画運営する部分は大事だと思いますので、今後も実行委員会をつくるかたちをとらせていただきたいと思っております。</p>
○小池委員	<p>新成人代表の方が3人スピーチをされましたが、応募者はどれくらいあったのでしょうか。</p>
○青少年課長	<p>応募者は1名でした。あと2名は教育事務所を通して推薦していただきました。</p>
○小池委員	<p>3人はどの地区から出ていますか。</p>
○青少年課長	<p>旧新潟、白根、西川です。</p>
○委員長	<p>場内の皆さんに発表している方がどういう人か、司会者が紹介してあげたほうが親切だと思いましたが。</p>
○小池委員	<p>その3人の方がスピーチをした後、お1人舞台のほうに来て何か言われた方がいましたが、あの方は何を言われていたのですか。</p>
○青少年課長	<p>ご自身がうつ病を経験されて治ったということで、そういうことを自分も主張したいということでしたので、メッセージコーナーがありますのでそこで書いていただきたいということで、特にステージに上がってということは、控えていただきました。</p>
○体育課長	<p>新潟市スポーツ振興基本計画（案）について、資料に基づき報告。</p>

【報告概要】

計画（案）、計画策定スケジュール、計画（案）に対するパブリックコメントについて報告。

○委員長

質問、意見を求める。

○山田委員

基本方針の健康スポーツ、競技スポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツと4つ書いてあり、言おうとすることは何となく分かるのですが、文章で主語、述語がねじれている感じがするので、何が言いたいのか、どうするのがはっきりしないのですね。特に「(2) 競技スポーツ」と「(3) みるスポーツ」、確かめていただいて、表に出るものですので、きちんとした文章に直していただきたいと思います。

○山田委員

計画案の7ページに「幼児・子どものスポーツ」と書いてあって、最初に現状が施策の方向ということで示されているのですが、「幼児の「走る・飛ぶ・投げる」能力を全国に比較すると男女とも全国平均値でした」とあるのですが、資料に載っているのは小学生の体力テストが載っています。「走る・飛ぶ・投げる」これを全国と比較するとほとんどが低いはずですが、そういう問題があるのに幼児は全国平均でしたということで、小学校の資料が出ていることは、ちょっとおかしい感じがします。8ページの「スポーツを取り巻く現状」のところにも、「幼児を全国調査と比較すると」とあるのですが、これは資料に載ってないわけですよ。そして「5段階評定の「3」でした」という言い方をしているのですが、これはいったい何だという感じがしました。教えていただきたいのは、9ページの中学生から高校生あるいは20歳くらいまでということですが、基本目標の「市独自の研究会」、これは指定研究をやるということでしょうか、研究会を立ち上げるということですか。

○体育課長

あらゆる機会でこういうことについて話題を出して研究を進めていこうということになります。

○山田委員

「市独自の」と強調しているのですね。これは体育の授業について研究会を設けて研究していくのか、講師を呼んできて研究をするという意味なのかははっきりしないのですが。

○体育課長	その表現については、検討します。
○山田委員	随所に出てくる「スポーツ振興会」は、小学校単位につくられているスポーツ振興会を意味しているのでしょうか。
○体育課長	はい、そうなります。
○山田委員	スポーツ振興会に相当大きな役割を果たすように書かれています。現在あるスポーツ振興会は、これに近いかたちで機能しているのでしょうか。
○体育課長	現状を申しますと、スポーツ振興会は国が方向性を定めている総合型スポーツクラブの新潟版というかたちで捉えております。その中で旧市内では年間約3万人の方々がスポーツ振興会の事業に参加しています。地域に密着したかたちでやはり小学校単位が良いだろうということで現在進めているわけですが、その中で求められるのは、マネージャー的なものがないということで、スポーツ振興会マネージャー（仮称）を各校区ごとに設置してはどうかということが、案に入っています。このスポーツ振興会を自立することによって、地域に密着したスポーツ振興が図られるという計画で案の随所に入ってきております。特に生涯スポーツを対象にしております。
○委員長	新潟で一番何が問題かということ冬場のスポーツ、天候が悪い日が多いということです。パブリックコメントの中にもオールウェザーという言葉が出てきております。従って何としても最後のほうの「新たなスポーツ環境の整備」というところで、オールウェザーの施設をつくってもらいたいという期待がありますので、このオールウェザーというものを含めて、ご検討いただきたいと思います。最初の「基本計画の基本的な考え方」の中に、新潟市の子どもたちの体力が全国平均に比べて低いところから出発して、子どもの現状を見ると、このまま放っておいてはいけないのだと、子どもの体力向上が市の教育なり、市民生活なりにかなり大きな課題となっており、その解決のためにもこういうものが必要なんだという視点があっても良いのではないかと思ったのですが。
○体育課長	この計画を立てる段階でも、当初、平成14年からスポーツ振

興審議会で話題になったのが、子どもの体力についてでして、当時の文部省が平成12年に基本計画をつくったときも、それを踏まえて基本計画をつくるべきだと、特に子どもの体力ということが強調されたのですが、答申では具体的に子どもの体力についての具体策が書いてなく、検討しなければならないという答申だったもので、私たちもそれについて表現が難しいと思っていたのですが、ご指摘のことで取り入れてまいりたいと思います。

○委員長

パブリックコメントの中に、スポーツは楽しいと書いてあるが楽しくないという人がいらっしゃることも、入れておいていただきたいと思いますし、この前テレビでやっていたのですが、子どもは走り方が分からないんですね。幼児でしたけれど。それである指導者が付いて一から走り方を訓練したら、2週間くらいで走れるようになったのですが。それから立ち幅跳びもできない、要するに膝が使えない、そんな状況にあるんですね。ですからそういう基本的なところを十分認識していただいて、そういった子どもたちが今出現しているというところからも、アプローチをしていただければと思います。

○小池委員

身近なところでスポーツができる施設が欲しいというのがいろいろなところで出てきているのですが、身近というと小学校単位のスポーツ振興会などを中心として小学校や中学校の施設を使ってやっていくということが、一番どの住民にとっても身近にあるということになります。今、小学校や中学校の施設は、夜間ですとか、土日ですとか、休業日に、十分に利用されていると思われないので、そういうところを利用できるような体制を整えていくということが、非常に重要だと思います。スポーツを一生懸命やっている一方で、子どもたちは塾に駆り立てられ、それから面白いテレビゲームがあったりして、音頭をとっている人が空振りになってしまうような状態があるわけですね。もちろん、塾も大事かもしれないけれど、小学校低学年から早期教育みたいなものが親の間で熱が入ってしまって、スポーツよりも勉強ということになってしまっているのかと思うのですが、その辺は、体力がないことには、成長してから勉強が続かないということで、小さいときのスポーツこそ大事だというような、キャンペーンのようなものも必要になるのではないかと思います。スポーツの楽しさを小さいときに知ってしまえ



ば、後は子どもたち一人で、できると思うのですが、その時に教えられない、両親が仕事を持っているという時代ですから、益々親が子どもを連れて公園で遊んだりということができなくなっているわけですよ。そういうことを考えなくて、スポーツだけのことを考えていると、なかなかスポーツ振興は、できないという気がします。昔であれば、テレビゲームとかテレビ番組も子ども向けの面白いものがあるわけではないので、子どもが自然と外で遊んだりということになったらと思うのですが、そういう社会状況が変わっている中で、一生懸命スポーツだけを言っている、他の活動とのバランスという点で、スポーツを熱心にやるところ以外のところとも協調していかなければならないと思いました。

○山田委員

計画案の最後の「スポーツ医科学支援体制」についてですが、ビッグスワンの中に県のそういう施設がありますよね。そういうところとの協力は、考えていないのですか。それと、何かやる場合、非常に大事なことは、いろいろな組織と連携していくというのでしょうか、力を合わせながらそれぞれの良さを活かしていくということが非常に大事だと思うのですが、例えば端的に学校と連携、小・中・高・幼稚園あるいは大学と連携してこういうことに取り組むという表現は、あまりないようですね。お医者さんや看護師さんを使っていく、そして自分たちが何かをするということは、あるのですが、連携して、要するに同等の立場で連携して、力を合わせてこのことに取り組んでいくんだという論議は、検討委員会の中で、されなかったのでしょうか。

○体育課長

この策定にあたる検討委員会の中で、この医科学関係は、かなり話の中で出てきました。ビッグスワンにあるものは、競技スポーツを優先するもので、一般の方々がなかなか行けないシステムになっているものですから、独自のものをやったほうが良いのではないかとということで、挙げてあります。連携については、大学との連携も必要であるということは、議論の中に出ましたので、表現としてあまり分かりやすくなっていないかもしれませんが、それももう一度見直して、もう少し見えるようなかたちにしたいと思います。学校との連携については、医科学の中では話題は出てこなく、地域と密着したという中で学校との連携がかなり出てきました。

○委員長

スポーツというどうしても競技と結び付きやすい言葉なんですよね。ですから運動と言ったほうが良いのかもかもしれませんが、要するに体を動かしましょうという、健康のためという意味なんだろうと思うのですが、そういうことと言えば、民間等の教室、施設でヨガ教室だとかフラダンスだとかそういうものがたくさんできていますよね。公民館でもヨガなどやっていると思うのですが、そうした講座などを活用して、ゆっくりと体を動かしてみるということが必要なんですよ、ということをごくここでうたって欲しいと思います。競技的な雰囲気がありますので、高齢者に限っては1日10分間の運動をしましょうというようなかたちのものを、運動の仕方については公民館などにあるからそういうものを活用してやるということ、もし、予算的に余裕があれば、多少の扶助なり、割引券を作るとか、そういうこともできなくはないと思いますので、高齢者スポーツについても考えていただきたいものです。

第5 次回日程

○委員長

次回の日程について説明を求める。

○総務課長

2月定例会は2月20日（月）午後3時から、3月定例会は3月17日（金）午後2時から、3月臨時会は3月30日（木）午後2時からでお願いしたい。

○全委員

全員異議なく了承する。

第6 閉会宣言

○委員長

午後3時50分、閉会を宣言する。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

署名委員